



浜街道のなごり松

現在の東灘区から中央区にかけて、西国街道は「本街道」と「浜街道」に分かれています。この西国街道は京都(東寺口)から内陸部を西宮まで通り、芦屋市打出で浜街道と分かれしました。「本街道」が主として西国大名の参勤交代に使われたのに対して、「浜街道」はそのバイパス・生活道路として使い分けられていました。そのため、本街道は道幅も広く田畑の中を通っており、一方の浜街道は村と村をつなぎ、庶民の道としてにぎわっていたといわれています。

当時の俚歌に「深江こゆれば大日如来、高い高橋おどり松」というものがあります。靈龜元年(七一五)、神輿に乗った森の稻荷神社の神が沖合から上陸した時、人々が喜んで波打ち際の松のまわりを踊りまわって迎えたことから、その松を「踊り松」と呼ぶようになったといわれています。松の枝ぶりが踊るような姿であるために起こった名なのではないでしょうか。そのなごり松とどめる松や碑が浜街道沿いに点在しています。



浜街道・なごりの松



「摂津名所図会」に描かれた踊り松

主な見どころ

魚屋道の碑
「魚屋道」とはこの付近でとれた海産物を六甲山越えて有馬温泉に運ぶ最古で最短のルートであり、阪神深江駅の北東側にそれを示す碑が建っている。

大日靈女神社
戦時中の空襲により社務所・だんじり庫・樹齢数百年の多くの松が焼失した。本殿も平成7年(1995)の大震災により倒壊したが、平成12年(2000)11月に再建された。文明13年(1480)に創祀以来500余年にわたり、深江の里人から「大日ツタン」と親しみをこめて崇敬されている氏神輿(地車)がある。

踊り松地蔵
むかし踊り松あたりに散在していた石仏や五輪塔などを付近の市街化の進行にしたがって、一ヶ所に集めまとったものである。

踊り松の碑
神戸商船大学開学30周年の記念に、深江財産区の手で碑が建てられた。

浜街道・なごりの松
明治33年(1900)、本庄小学校建設時から運動場の南側に並んでいた浜街道の松のなごりである。

八坂神社
旧青木村の氏神で、保久良神社の祭神が青龍に乗って上陸した所だと伝えられている。境内の西南隅に旧本庄村道路元標(げんびょう)が建っている。5月3・4日に例大祭がある。

花松首地蔵尊
もとの地には首から上の病氣平癒に霊驗(れいげん)があるといわれ、花松地蔵と呼ばれた石仏がまつられていた。大正6年(1917)、地域の人々が新たに首から上の地蔵像を建立し、花松くび地蔵と名付けた。

神戸深江生活文化史料館
昭和56年(1981)、深江財産区によって建設された。日本庄村史誌編集時に地元住民から寄せられた貴重な郷土史料などが展示されている。日曜のみ10時～17時、無料。(078)453-4980

神戸商船大学海事資料館
船舶の模型や古い航路図など数多くの海事資料を収蔵。見学希望者は、同大学まで事前に申し込むこと。9時～16時、日祝日定休(無料)(078)431-6236





